



夏休み図書館大改造！ 坂田小学校の図書館が 使いやすくなりました！

坂田小学校では、かつて児童の急増から教室が不足し、学校図書館を教室として使用していたことがありました。現在の図書館は、教室として使われていた部屋を再度図書館として使用しており、黒板や掲示板が残っていたり、低い本棚を使用していたため本棚が増え読書スペースが十分確保できないなど多くの課題がありました。

今回、講師となるのは、学校図書館活動推進委員で京都市内65校の図書館の改造を指導した向井純子さん。

坂田小学校の職員や読書活動支援ボ

ランテア、県と市の図書館職員のほか、児童と保護者56人が協力し、作業に取りかかりました。本棚から本を全て出し、本棚の配置を変え、見出しを入れて、分類番号に合わせて本を並べ直しました。

1日ばかりで作業を終え、リニューアルした図書館は、児童の手が届く範囲に本を配置する、足りない本棚は校長先生が部屋に合うよう手作りするなどさまざまな工夫が凝らされました。また、作業に当たって、地元の事業所から本棚の材料を提供いただき、建築組合には室内補修を手伝っていただきました。作業終了後、向井さんは「みんなの力を結集していい図書館ができました。特に、図書館の利用者になる児童や先生がたくさん参加していただいたことで、今後の利用につながります。図書館を学びの場としてぜひ生かしてください」と話しました。

8月20日、坂田小学校では、夏休みの1日を利用して、学校図書館の大改造を行いました。これは、県教育委員会と県公共図書館協議会が、学校図書館を活性化するため行っている「地域連携による学校図書館活性化ワークショップ事業」に坂田小学校が申し込み、実現したものです。



図書館大改造！

スケジュール

- 9:00 本棚から本を出し、
分類番号ごとに仕分け
- 10:30 本棚をふく
- 11:00 本棚等を移動
- 13:30 分類表示に合わせて本を入れる
- 16:00 作業終了

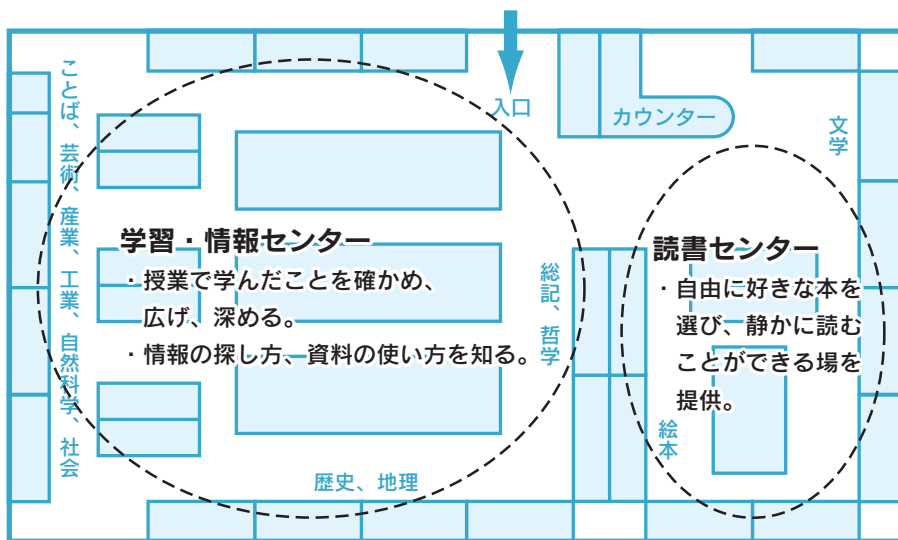




大きな分類表示で、本が探しやすく、返却しやすくなりました。



学習スペースが広がり、調べ学習がしやすくなりました。0~8類の本が周りに配置されています。



「日本の図書館の本は、日本十進分類法により、2は歴史・地理、9は文学というように分類されています。これが本の住所になっています。これが本のラベルにも表示されています。これを知り、小学校で図書館の使い方を覚えれば、中学校、高校の図書館も、公共図書館もスムーズに使えるようになるんです」と向井さんは小学校での図書館活用のメリットを話します。



図書主任、司書教諭
本田 道子先生

書架を移動し、机を増やしたことで、調べ学習がしやすくなりました。図書分類の表示も大きくなったので、子どもたちが自分で目的の本を探しやすくなりました。総合学習や国語、社会などいろんな授業にどんどん使ってもらいたいですね。落ち着いて読書しやすくなったので今まで以上に図書館を利用してもらえるとうれしいです。



親子で参加された
濱谷 簡くん 晃子さん

「読書活動支援ボランティアをしているので、図書館をきれいにしてお手伝いをしたいと思い参加しました。本の奥深いことも分かったし、子どもたちとこんな風と一緒に作業することはなかなかないので、とても楽しかったです！」と晃子さん。「前の図書館はごちゃごちゃしていて使いにくかったけど、とても使いやすくなりました。自分たちできれいにできたのでうれしかったです。歴史が好きなのでこれからもたくさん本を借りたいと思います」と簡くん。